

第2回

民俗芸能 交流サロン

2025

Folk performing arts Salon

令和
7年
(2025)

12.6

土

14:00~16:30 (開場・受付13:30)

京都芸術センター 講堂

京都市中京区室町蛸薬師下る山伏山町546-2

料金 **1,000円** 定員**100名**
お釣りの出ないようにご準備ください

プログラム program

実演

中堂寺六斎念仏 開幕演技『七草』
Cyudoji Rokusainenbutsu

演目『四つ太鼓』『祇園ばやし』『獅子と土蜘蛛』

中堂寺六斎会

クロ
ストーク

「民俗芸能における未来像～創作と伝承」

全日本郷土芸能協会 常務理事 **小岩秀太郎氏**

中堂寺六斎会 会長 **秋田吉博氏**

嵯峨大念仏狂言保存会 事務局長 **加納敬二氏**

実演

嵯峨大念仏狂言『土蜘蛛』
Saga Dainenbutsu Kyogen

嵯峨大念仏狂言保存会

交流タイムもございますので、色々な質問をお待ちしています

民俗芸能の「未来」を語る。

土蜘蛛

太鼓

嵯峨大念仏狂言

獅子

立廻り

躍動

中堂寺六斎念仏

主催：京都郷土芸能「活性化してやろう」会

共催：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス（京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会）

後援：公益社団法人全日本郷土芸能協会、公益財団法人京都市文化観光資源保護財団、京の風流踊振興会

協力：中堂寺六斎会、嵯峨大念仏狂言保存会、京都市文化市民局文化芸術企画課、京都市文化市民局文化財保護課



本事業は、令和7年度 文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の補助を受けて実施しています。

TAIRO
伝統芸能文化創生プロジェクト

会場 Access

京都芸術センター KYOTO ART CENTER

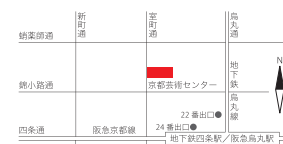
〒604-8156

京都市中京区室町蛸薬師下る山伏山町546-2

TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004

URL: <https://www.kac.or.jp/>

地下鉄丸九線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」
22番・24番出口より徒歩5分。
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



民俗芸能交流サロン

Folk performing arts Salon 2025

実演とクロストーク

「民俗芸能交流サロン」は、京都郷土芸能「活性化してやろう」会が主催する会で、郷土芸能の未来の担い手育成および発掘へ向けて、各芸能団体が定期的に集い課題を共有できるように開催しています。

第2回である今回は、ゲストに全日本郷土芸能協会の小岩秀太郎氏をお迎えし「民俗芸能における創造性と個性～創作と伝承」をテーマに、民俗芸能の未来を語っていただきます。

実演は、「嵯峨大念仏狂言」、「中堂寺六斎念仏」のいずれも保存会に登場していただきます。どちらの芸能にも『土蜘蛛』が登場する演目を演じて貰い、その違いを感じていただければと思います。

出演者 & 芸能紹介

パネリスト 小岩秀太郎 (公社)全日本郷土芸能協会 常務理事 Koiki Shutarō

岩手県出身。全日本郷土芸能協会(東京)で、郷土芸能の支援・ネットワーク構築に携わる。東日本大震災後、被災芸能の復興支援を機に、他分野と伝承者のコーディネーターとして活動。都市と地方を行き来しながら、郷土芸能を未来に繋ぐ方法を模索する「東京鹿踊」プロジェクトを展開中。「行山流舞川鹿子躍」伝承者(岩手)。文化継承企画「縦糸横糸合同会社」代表。



©Mayumi+Hirata

公益社団法人全日本郷土芸能協会 Japan Folk Performing Arts Association



郷土芸能の保存団体および関心を持つ個人・団体等を会員とした全国ネットワーク。昭和45年(1970)大阪万博「お祭り広場」出演団体および演出家らを中心に昭和48年(1973)に創立され、郷土芸能公演の企画制作、マネジメント、後継者育成、国際交流等を行っている。 <http://www.jfpaa.jp/>

パネリスト 秋田 吉博 中堂寺六斎会 会長 Akita Yoshihiro

昭和26年(1951)生まれ、昭和49年(1974)立命館大学経済学部卒。昭和29年(1954)3歳で第2回六斎コンクール初舞台、15歳で「祇園ばやし」太鼓方、昭和60年(1985)壬生寺精霊送り奉納で中堂寺六斎会最重要曲「七草」を前会長と復曲。平成27年(2015)より中堂寺六斎会会長、平成29年(2017)より京都六斎念仏保存団体連合会会長、平成30年(2018)より(公社)全日本郷土芸能協会理事(いずれも現職)。京都市民憲章推進者表彰。



パネリスト 加納 敬二 嵯峨大念仏狂言保存会 事務局長 Kano Keiji

昭和26年(1951)に京都市中京区に生まれる。昭和51年(1976)京都市埋蔵文化財研究所に入所、京都市内の埋蔵文化財の発掘調査・研究に40年間従事してきた。昭和63年(1988)嵯峨大念仏狂言保存会に入会する。平成20年度、京都市伝統行事・芸能功労者表彰を受ける。舞台では主に鉦・太鼓の囃方として、保存会では事務局長を担当し嵯峨大念仏狂言の保存・継承に尽力している。



コーディネーター 金ヶ江七海 Kanagae nanami

京都市出身。小学生4年生から中堂寺六斎会へ所属。京都府立鳥羽高校へ進学後、放送部で活動しNHK杯京都府下大会および全国総合文化祭にて受賞歴有。奈良県立大学地域創造学部へ進学後も京都市内で司会活動を継続。現在は、伝統文化にまつわるシンポジウムやイベントでの司会者として活躍するほか、中堂寺六斎念仏の奉納や出張公演において解説や紹介を担当。



参加申込方法 Reservation

京都郷土芸能「活性化してやろう」会
080-1414-4864 /担当: 加納

vtmi19509@leto.eonet.ne.jp

申込みフォーム
www.imaami.com/salon/

参加申込は、電話・メール・申込みフォームにて



申込みはコチラから

国指定重要無形民俗文化財「京都の六斎念仏」/ユネスコ無形文化遺産「風流踊」

中堂寺六斎念仏

中堂寺六斎会

ちゅうどうじろくさいねんぶつ

江戸時代後期、庄屋・塩見八右衛門氏が創始。“はちえもん六斎”と親しまれ、当時檜舞台であった清水寺には弘化4年(1847)から出仕している。終戦間もない昭和22年(1947)にいち早く再結成。昭和30～40年代の経済成長期に盂蘭盆、地藏盆、地元祭礼等へ多数出仕、加えて昭和45年(1970)の大阪万博はじめ地方公共団体や民間の催し等全国から招聘された。昭和49年(1974)には米田スパーケン市での万国博覧会に当会の獅子舞が派遣され好評を博した。

昭和58年(1983)に『京都の六斎念仏』のひとつとして国の重要無形民俗文化財に指定。令和4年(2022)、『京都の六斎念仏』を含む『風流踊』がユネスコ無形文化遺産条約の代表的一覧表に記載された。

毎年8月12日からの棚経行事、16日壬生寺精霊送り奉納を中心にボランティアで活動している。



国指定重要無形民俗文化財

嵯峨大念仏狂言

嵯峨大念仏狂言保存会

さがだいねんぶつきょうげん

五台山清凉寺(嵯峨釈迦堂)の境内にある狂言堂で行われる大念仏狂言である。壬生寺、引接寺(千本ゑんま堂)と並び、京都の三大大念仏狂言として知られる。弘安2年(1279)円覚上人によって始められた清凉寺の大念仏会に由来するとされている。保存会が所蔵する古面に享禄2年(1529)の墨書があることから、室町時代には能面を使用した狂言が行われていたことが伺われる。

昭和38年(1963)に後継者不足などで中断されるが昭和50年(1975)10月に嵯峨大念仏狂言保存会が結成され復活し、昭和61年(1986)に国の重要無形民俗文化財に指定された。壬生狂言同様、無言の仮面劇であり狂言方のほか囃方と後見が舞台に座る。演目には能楽系の「カタモン」と狂言仕立の「ヤワラカモン」に大きく分かれる。

公演は毎年3月15日清凉寺お松明式での奉納公演、4月初旬の土日の3日間からなる春季公演、円覚上人命日の10月26日に近い日曜日に行われる秋季公演を中心に、狂言堂で公開している。



お問合せ

京都郷土芸能「活性化してやろう」会

〒616-8447 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町 46

☎080-1414-4864

✉vtmi19509@leto.eonet.ne.jp

担当 加納まで